

九重火山の火山活動について (1999年10月～2000年1月)*

Recent Volcanic Activity of Kuju Volcano (October, 1999–January, 2000)

京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設火山研究センター

Aso Volcanological Laboratory, Kyoto University

1. はじめに

九重火山通称硫黄山の噴火活動が1995年10月に始まって4年余が経過した。噴火当初は、火山灰の噴出が数回観測されたが、その後は、常時水蒸気の噴出がほとんど変化せずに長期間継続している。

2. 火口状況

新火口群からの噴煙活動は、前回の報告¹⁾と殆ど変化なく、依然としてbおよびc火口列とd火口は活発である。

3. 地震活動

九重火山地域で現在発生している地震活動は、硫黄山付近と西・北西地域の八丁原・筋湯・湯坪地域と南・南西地域の瀬の本・池山水源地域に震源域がまとまるが、前回報告以後顕著な地震活動が発生していない。活動は1日10回前後で推移している(第1図参照)。

4. 地磁気観測

地磁気全磁力変化も前回報告と同様な冷却帯磁傾向が現在でもほぼ一定の速度で進行している。点源(球殻など)を仮定すれば、星生山の北460m、東200mの海拔高度約1km(地表下50m)付近を中心とした冷却帯磁で説明できる。白抜きの四角は、連続磁気点の近傍に設けた繰り返し磁気点における測定値(携帯用オーバーハウザー磁力計を使用)であり、連続記録とほぼ同じ傾動を示している。このことから、これまでの磁場変化がプロトン磁力計の異常によるものではないことが証明される。図示した日値は、5分観測値から火山研究センターの値を差し引いた後、夜間平均(0時～4時)を求めたものである(第2図参照)。

5. まとめ

火口表面活動・地震活動・地盤変動・地磁気のすべてにおいて、前回の報告と同じ傾向が依然継続している。今後、このような傾向が直ちに止まるとは考えられない。

参 考 文 献

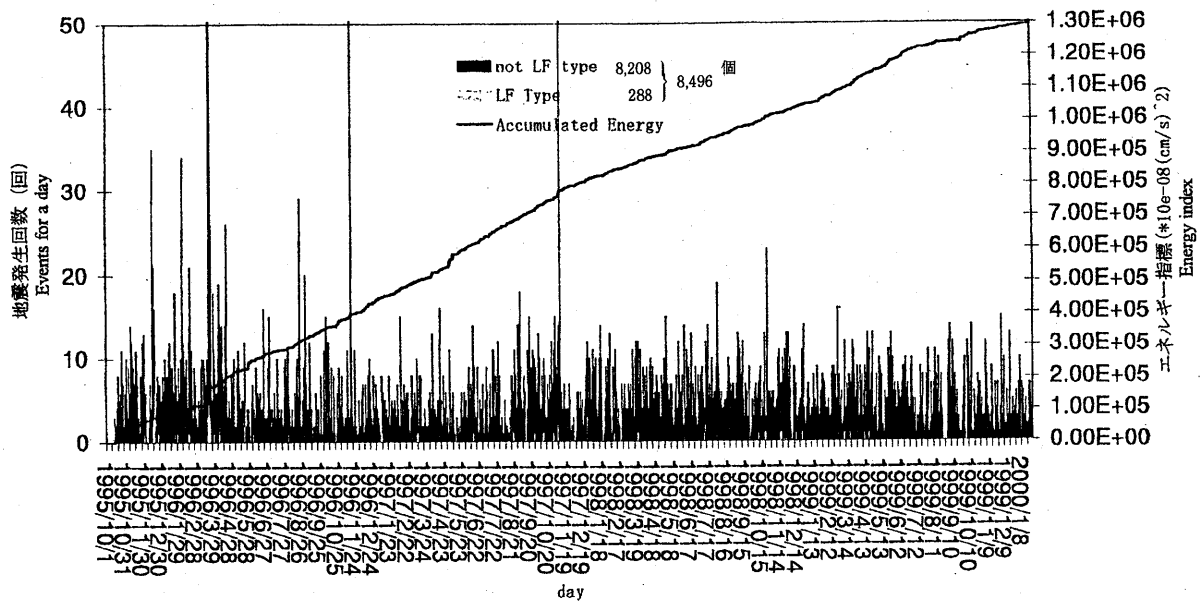
- 1) 京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設火山研究センター(2000): 九重火山の火山活動について(1995年5月～10月), 噴火予知連絡会報, 75, 97–99.

*Received 27 Nov., 2000

九重火山 硫黄山地区の累積地震エネルギー

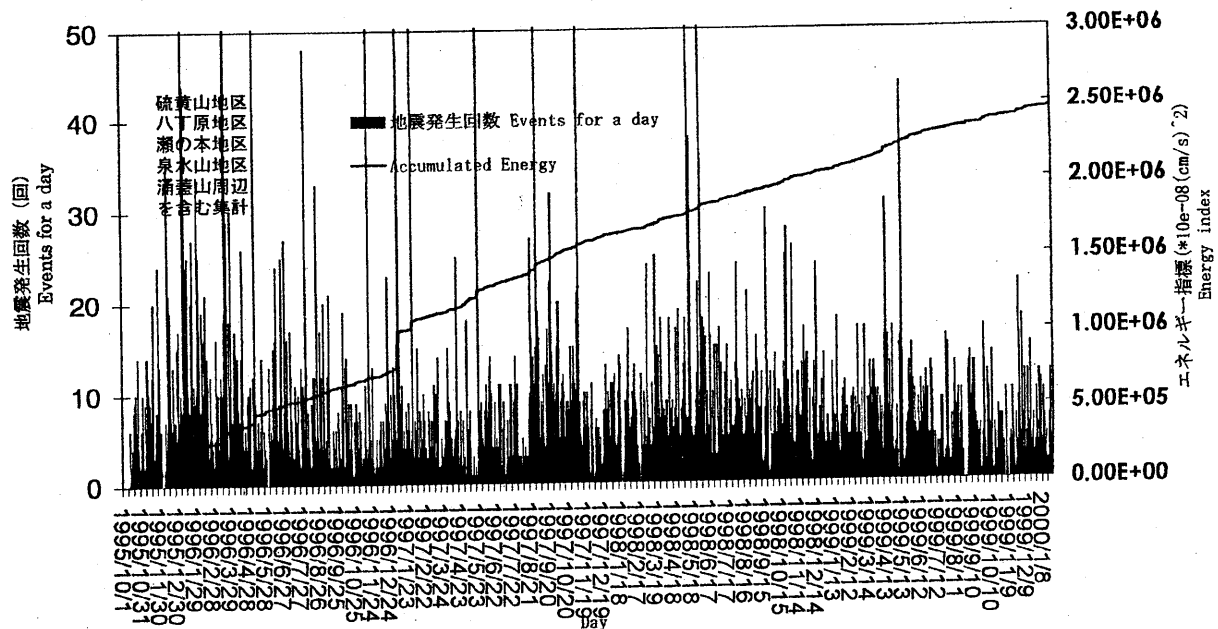
2000年1月27日まで

Released seismic energy at Iwo-yama, Kuju. S-P time <0.6s



九重火山とその周辺の累積地震エネルギー

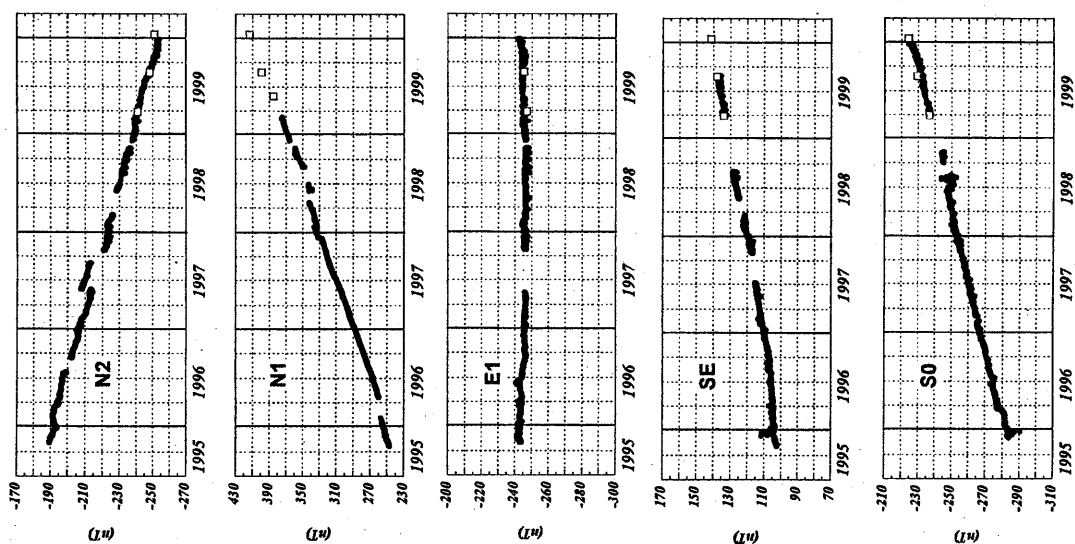
Released seismic energy in and around Kuju. S-P time <2.0s



第1図 九重火山とその周辺地域および硫黄山地域の地震活動（日別発生頻度および累積エネルギー）

Fig.1 Seismicity in and around Kuji Volcano.

九重火山における地磁気全磁力変化



第2図 地磁気観測の結果
Fig. 2 Results of Geomagnetic Observation.

